



二十六聖人

日本二十六聖人殉教者



聖マチヤス

17. 家がフランシスコ会修道院のすぐ近くにあった。洗礼後、間もなく迫害が始まり捕えられた。逮捕者の名簿に載っていたのは、別のマチヤスだったが、本人が返事をしなかったので、彼が代わりに進み出て殉教者の中に加えられることとなった。

日本二十六聖人殉教者



聖しお鳥丸

18、パウロ茨木の弟。フランシスコ会士のもとで伝道。彼らを助け京都、大阪の修道院建設に尽力した。病院長としても働き、自ら患者の体を拭き清め、京都中の人達に尽力した。48歳。尾張生まれ。

巻頭言：沈黙の聖人ヨセフ

ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。【マタイ 1, 20~21】

3月は聖ヨセフの月です。わたしたちがよく知っている通り、ヨセフはマリアの夫であり、イエス様の養父です。ヨセフは自分に任せられたマリアとイエス様を、自分の命をかけて守り抜きました。でも、ヨセフについての情報は意外と少ないです。カトリック教会には数多くの聖人たちがいますが、多分その中でもヨセフの情報は一番少ないのではという気がするほどです。しかし、黙想すればするほど、ヨセフの深い信心を味わうことができます。

そもそもヨセフはマリアの婚約者でした。でも、マリアの妊娠の事実を知ったとき、彼はマリアとの縁を切ろうとしたのです。それは人間としての当然な判断だったかもしれませんが、しかし、神様はそのヨセフを選ばれました。そのお選びに対して、ヨセフは一言も反論しませんでした。彼は素直に神様に従ったわけです。ここに、マリアとヨセフの縁は、聖なる縁に変わり始めたと言える理由があります。それは神様への従順だったでしょう。

ヨセフの従順はそれからも続きます。しかも、ヨセフの従順は沈黙の従順でした。エジプトに逃げる時も、エジプトからナザレに帰るときも、ヨセフは沈黙のうちに神様に従いました。イエス様を捧げる時、シメオンから自分たちの未来に関する酷い言葉を聞いたときもヨセフは黙っていました。イエス様が

12歳になったとき、見失ったイエス様を神殿で見つけた際にも、ヨセフは何も言いませんでした。人間的な疑い、感情、思い煩い、葛藤もあったでしょう。けれども、ヨセフはいつも沈黙を守るだけでした。ここに、マリアと異なるヨセフの聖性があると思います。マリアの聖性は神様への完全な従順にあると言えるでしょう。それに比べたら、ヨセフの従順は完全なものではありませんでした。そうです。ヨセフの聖性は少しずつ完成されていったのです。自分の考えや言葉が、神様の救いの神秘を妨げるかもしれないという、聖なる恐れがあったでしょう。その恐れがあったからこそ、ヨセフは沈黙の中で、自分の魂を鍛えることができ、更に、清めることができたと思います。そこで、ヨセフは今のわたしたちにとって、最も親しい模範となる気がします。

ヨセフはダビデの子でありながらも、貧しい大工でした。でも、心を尽くし、愛を込めてマリアとイエス様を守り抜きました。沈黙の聖人ヨセフの取り次ぎによって、わたしたちの信仰が強められ、清められますように。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求





2025年2月 (2月2日開催)

【検討・報告事項】

1. 設備修理・更新

現在の教会建屋は1995年に竣工しました。まだ建替えは必要ありませんが、修理・更新すべきものが次第に増えています。教会委員会は以下のような予算措置や検討を行っています。

- ①聖堂、信徒会館、司祭館空調機の更新：
計画中、三階から順次更新する予定
- ②主装置(電話回線を引込むための装置)の更新：計画中
- ③変流器(電柱から電気を引込むための設備)の支持板の更新：更新済
- ④事務所パソコンの更新：購入済、
Windows10のサポートが本年10月に切れるため
- ⑤屋外掲示板照明の修理：修理済

2. 外注清掃の頻度低減

いままで年四回の頻度で床ワックスがけ等の清掃を外注していました。2025年からは年三回に変更することにしました。

3. 2025年信徒集会

2025年信徒集会を3/23に開催します。各委員会・信徒会が2024年活動報告と2025年活動方針を作成中です。

4. 名札着用推進

信徒のより深い交わりのために、コロナ禍で一時中断していた名札の着用推進を再開します。名札作成や推進キャンペーンのためのボランティアを募集する予定です。なお、従来通り、着用は個人の自由です。

5. 一粒会会費

2月から順次、教会維持費封筒に入っている維持費納入カードの裏に、一粒会会費納入欄を印刷したシールを貼り付けていきます。目的などその他の詳細は別途お知らせします。

6. ルカ枇杷晃平助祭の司祭叙階式協力

3/20に保土ヶ谷教会で枇杷助祭の司祭叙階式が行われます。保土ヶ谷教会からの要請に応じて当教会から聖歌隊、お祝いの出し物、お手伝い二名の協力を申し出ることにしました。

7. 「オルガニストの会」

1/26 第三地区宣教司牧委員会全体会(末吉町教会)で第三地区オルガン奏者の集い「オルガニストの会」が正式に認知されました。三部門のうち「祈る力を育てる部門」が同会を担当します。

【フリーディスカッション】

「青少年や壮年に教会委員会は何を思い、何をしてきたか」をテーマに討議しました。将来、具体的には30年後に備えて、その時に教会を担っている青少年や壮年のことを今まで以上に真剣に考えようという意見が多数ありました。2025年もこの討議を続ける予定です。

【各会報告】

1. 典礼委員会

- ・2/11(火・祝) 研修会(藤沢教会)12名参加
- ・3/2(日) 水の祝別 10:00 ミサの中で行います。

- ・3/5(水) 灰の水曜日 灰を受けられるのはこの日のみです。
- ・3/6(木) ベネディクション (聖体賛美式)19:00
- ・3/7(金)から毎週金曜日 9:20 から十字架の道行

2. 教会学校

- ・1/12 リーダー会実施 (予定確認とクリスマス行事振り返り)
- ・1/19 初聖体クラス開始(8名)、新成人のお祝いで歌のプレゼント
- ・2/2、16 教会学校
- ・2/2、9、16 初聖体クラス
- ・2/9 侍者会
- ・2/24 信仰教育委員会リーダー研修会(二宮教会)
- ・3/16 教会学校修了式・卒業式

3. キリスト教講座

- ・「聖書の集い」は5月より教会全体に参加を呼びかけます。
- ・「四旬節黙想会」の指導司祭は西村英樹師で3/8(土)開催です。テーマは「神はイエスを死者の中から復活された」です。
- ・2025年キリスト教入門講座は4/12より開始します。

4. 財務委員会

前述の一粒会会費に関する報告

5. 広報委員会

今年『二十六聖人』にて聖年について毎月連載します。

6. 福祉委員会

特になし。

7. 建物管理委員会

前述の修理等予算申請および外注清掃頻度変更報告

8. 共同墓地委員会

2/9 共同墓地管理委員会、3/9 四教会合同共同墓地委員会(港南教会)

9. ヨゼフ会

- ・1/12、1/26 の2回コーヒー光
- ・1/19 新年会・成人式 コーヒーサービス
- ・1/26 馬小屋解体整理

10. マリア会

- ・2025年マリア会会長に、K. R. さんを選出。
- ・報告

1/26 マリア会総会ミサ後聖堂にて25名参加
1/20 運営委員会議、1/24 総会準備(運営委員)

パーティー係 1/18、19 新年会・新成人のお祝い準備

アンナ会 1/27 活動

ステラマリス帽子を編む会 1/17、23 活動
ボリビア支援グループ 1/12「のんびり日曜日」

- ・予定

2/16 運営委員会議会

アンナ会 2/10、17 活動

ステラマリス帽子を編む会 2/21、27 活動
ボリビア支援グループ 2/23「のんびり日曜日」

11. 青年会

1/19の10時ミサで二十歳のお祝いをしました。対象者10名以上のうち5名参加。教会学校や青年会から歌や動画、日めくりカレンダーのプレゼントを行いました。協力していただいた教会学校、青年、参加した対象者や保護者の方々に感謝します。

12. インターファミリー

特になし。

13. 一粒会

- ・第三地区一粒会の集いを2/9(日)に二俣川教会で開催し、2025年度の活動方針を話し合います。
- ・2024年の二俣川教会一粒会献金額は111万円(昨年比104%)でした。

以上



皆で祈りましょう

2025年3月5日は灰の水曜日です。
この日より四旬節となります。
日々の行いを振り返り、「回心の祈り」の
ひとつとして唱えましょう。



神のゆるしを願う祈り

いつくしみ深い父よ、あなたは、御ひとり子をお与えになるほど
わたしたちを愛し、その受難と死と復活によって、
あなたのいのちにあずかることができるようにしてくださいました。
しかし、わたしは自分中心に生きてあなたの愛に背き、
あなたと兄弟姉妹に対して罪を犯しました。
どうか聖霊を豊かに注いでわたしの罪をゆるし、
回心の恵みをお与えください。
これからはキリストに従って生きる者となり、
真の愛を实践することができますように。アーメン。

(「カトリックの祈り (改訂新版)」より)

縦読みポエム 〜最終回〜

皆さまからご寄稿いただいた縦読みポエムシリーズ、今回で最終回です。
ポエムの最初の言葉を縦に読んでみてください。ご参加ありがとうございました！

み主(あるじ)の
言の葉 胸にきざみ
共に生きるは
バベルの塔にあらず

輝ける
み光を背に受けて
「さあ行きなさい」と派遣され
まっすぐ歩む信仰の道

世界でたった一人の
イエス様と神様が下さった
霊的プレゼント
いつまでも私と一緒にいてください

マリア様に祈ります
律する心で
悪魔の
誘いから
守られますように

2月9日 二十六聖人口ウソク行列

2月5日は私たち二俣川教会の守護の聖人「日本二十六聖人殉教者」のお祝い日でした。今年も、お祝い日に近い主日ミサの中で26人の口ウソク行列が行われました。今年も老若男女、外国籍の方々まで、様々な方がご参加くださいました。参加された方の感想を2回に分けてお届けします。

～参加者の声①～

†イエズスの聖フィリッポ

「二十六聖人」ひとくくりではなく、ひとり、ひとりに思いをはせることは大事なことと思えました。事前に担当をお知らせ頂き黙想することができました。ありがとうございました。



†聖レオン烏丸

初めて行列に参加し、26人という人数の多さと、男女、国籍、年齢の違う、信仰に結ばれた方々が神様の元へいちずに向かわれたこと、聖人も肉体をもった人間だったのだということ、実感できた体験でした。



†聖ヨアキム榊原

侍者の持つ十字架を先頭に、復活のキリスト像を目指して進む26人の行列を、きっと、守護聖人の方々は見守って下さったことでしょう。100歩にも満たない歩みでしたが、その1歩ずつに聖人方への思いを込めて進めたことはお恵みでした。

†聖ミカエルのフランシスコ

初めて参加しました。同じ衣をつけ、待ち時間に紹介しあうと、顔と名前が一致して、たちまちうちとけなごやかに。刑場に向かう行列のはずが、神様のもとに向かう心はずむ行列になりました。

†聖アントニオ

とってもどきどきしました。わたしもアントニオさまのように、いつでもおいのりをしたいとおもいます。

†聖ルドビコ茨木

I have been to Nagasaki 2 years ago. I saw the exact location where the 26 Martyrs who were executed by crucifixion and visited the museum and monument complex as well. I was deeply moved upon reading and staring at the photos, statues that have been displayed on the wall. Words were not enough. So I accepted to be a part of the procession when I heard and learned that there would be a commemoration of the 26 martyrs to be hold on February 5th. I was touched and became emotional while walking on the Isle during the procession. I was so grateful to be a part of it, and to all people who put their effort and time as well to make this commemoration very solemnly.

† 聖パウロ三木

祭壇の前にロウソクが並んでいたから、いつもと違った景色でおもしろかった。

† 聖ガブリエル

私は、行列参加は今回、二回目の参加でした。日本二十六聖人殉教者の記念日のミサは入祭と閉祭の聖歌が特別な曲です。入祭の聖歌に合わせて歌いながら入堂した時、閉祭の聖歌を歌っている時心と胸がいっぱいでした。二十六聖人のひとりひとりのゼッケンをつけてロウソクを持って、二俣川教会の守護の聖人の取次ぎの祈りができた事、行列参加をする事が出来て、私はとても嬉しかったです。



† 聖ヨハネ五島

家族揃って参加できたことがとても嬉しかったです。

† 聖ヨハネ絹屋



初めての参加でした。私の担当は聖ヨハネ・絹屋、28歳。京都の絹織物師で修道院の近くに住み、1595年に受洗し慈悲事業に一身を捧げられたそうです。彼はその時、まさか後にこのような目に遭うとは思ってもみなかったことでしょう。大変悲しい出来事ではありますが、天に召され聖人となり、今度は私たちの信仰の大きな励みと支えとなってくださっていることに感謝です。行列に参加して大変厳粛な気持ちになりました。

二俣川教会 ニュース

- 司祭叙階式準備の為に2月22日(土)にベトナムへ一時帰国されるナン助祭を囲み、2月16日(日)に共にごミサを捧げ、その後、2階にて壮行会が行われました。ナン助祭が、8月4日の叙階式まで、所属する修道会の色々なサポートを得て十分な準備ができますようにと祈りながら、共に歩んで参りましょう。
- 3月20日(木・祝)に、保土ヶ谷教会のルカ枇杷晃平助祭の司祭叙階式が、保土ヶ谷教会にて13時より行われます。霊的花束が呼びかけられています。助祭の為に祈りましょう。
- 3月5日(水)は灰の水曜日です。この日から四旬節が始まります。ミサは10時から、灰はこのミサ時のみ受けることができます。灰の水曜日と聖金曜日は大斎・小斎です。
- 聖堂内の十字架の道行に各留の説明が設置されました。四旬節の間、毎週金曜日9:20から十字架の道行が行われます。
- 3月8日(土)に四旬節の黙想会が行われます。指導司祭はルドヴィコ茨木 西村英樹神父様です。詳細はロビーのポスターをご覧ください。

聖年が、わたしたちの信仰を強め、復活のキリストを生活のただ中に見出す助けとなり
わたしたちキリスト者を希望に満ちた巡礼者に変える力となりますように。



聖年
特集
Vol.2

2024年5月9日「主の昇天」の祭日、フランシスコ教皇様は、バチカンで夕べの祈りを捧げられ、その集いのはじめに、来たる2025年の聖年を公式に布告する勅書を教会の代表者らに手渡されました。いま、その勅書が私たちの手元にあります。私たちが希望を再び見出し、希望を告げ、希望を築けるようにと、復活し昇天された主にその恵みを祈り求められた教皇様に応えることが出来ますように。本紙で勅書を毎月連載してまいります。

1 「希望はわたしたちを欺くことはありません (Spes non confundit)」 (ローマ 5・5)。使徒パウロは希望のしるしの名のもとに、ローマのキリスト者の共同体に励ましを与えます。古来の伝統に従って教皇が25年ごとに宣言する、次の聖年の中心となるメッセージも希望です。わたしは、聖年を過ごすためにローマを訪れる人たちと、使徒ペトロとパウロの町に行くことはかなわずとも部分教会において聖年を祝う人たち、そうしたすべての希望の巡礼者のことを思います。すべての人にとって聖年が、救いの「門」である主イエス (ヨハネ 10・7、9 参照) との、生き生きとした個人的な出会いの時となりますように。教会は、主イエスを「わたしたちの希望」 (一テモテ 1・1) として、いつでも、どこでも、すべての人にのべ伝える使命をもっています。

すべての人は希望を抱きます。明日は何が起こるか分からないとはいえ、希望はよいものへの願望と期待として、一人ひとりの心の

中に宿っています。けれども将来が予測できないことから、相反する思いを抱くこともあります。信頼から恐れへ、平穩から落胆へ、確信から疑いへ。わたしたちはしばしば、失望した人と出会います。自分に幸福をもたらしうるものなど何もないかのように、懐疑的に、悲観的に将来を見る人たちです。聖年が、すべての人にとって、希望を取り戻す機会となりますように。神のことばが、その根拠を見つけるのを助けてくれます。使徒パウロがローマのキリスト信者にあてて書いたものに案内してもらいましょう。

希望のことば

2 「わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのおかげで、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。……希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた

聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです」(ローマ5・1—2、5)。ここでパウロは、考察すべき点を数多く示しています。わたしたちは、ローマの信徒への手紙は彼の宣教活動の中の決定的な段階を記していることを知っています。それまで、彼はローマ帝国の東部一帯で活動していましたが、いよいよローマが、世界の中でも特徴的な意味をもつあの町が、彼を迎えるのです。それは、障壁も境界も知らない福音を告げ知らせるため、立ち向かうべき大いなる挑戦でした。ローマの教会はパウロによって設立されたものではありませんが、彼は一刻も早くローマに赴きたいという強い望みを抱いていました。それは、死んで復活したイエス・キリストの福音をすべての人にもたすため、すなわち、約束を実現し、栄光へと導く、愛に基づいた欺くことのない希望を告げるためでした。

3 希望はまさしく愛から生まれ、十字架上で刺し貫かれたイエスのみ心からわき出る愛がその根本です。「敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子のいのちによって救われるのはなおさらです」(ローマ5・10)。そのいのちは、洗礼とともに始まるわたしたちの信仰生活の中に現れ、神の恵みに素直にこたえる中で育っていきます。そうして、聖霊の働きによってたえず新たにされ、揺るがないものとされる希望によって、いっそうの輝きを放つのです。旅する教会とたえず歩みをともにし、信

じる人々に希望の光を注いでくださるかたこそ聖霊です。聖霊は、決して消えることのない松明のように、わたしたちの人生に支えと力を与える、希望の光をともし続けてくださいます。間違いなく、キリスト者の希望は、裏切ることも欺くこともありません。なぜならそれは、何事も何者も神の愛からわたしたちを引き離すことはできないという確信に根ざすものだからです。「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。……しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださるかたによって輝かしい勝利を収めています。わたしは確信しています。死も、いのちも、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高いところにいるものも、低いところにいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ローマ8・35、37-39)。ですからこの希望は、困難によってくじかれることはありません。信仰に基づき、愛によって養われるのです。希望のおかげで、人生を前に進むことができます。このことについて聖アウグスティヌスはこう書いています。「どのような生活のしかたであれ、信じ、希望し、愛するという、魂の三つの性向なしに、人は生きることできません(1)」。

(1) 聖アウグスティヌス「説教」(Sermo198augm., 2)

【10分動画でわかる】

カトリック入門講座 ～聖年について～ 聖パウロ修道会ホームページより

右のQRコードを、スマートフォンのカメラに写すと動画を読み込むことができます。→



ホッとトピックス

1月19日、10時ミサの中で新成人のお祝いが行われ、ミサ後教会新年会が行われました。その中で、同じ月生まれのなかまたちが集まって記念写真を撮りましたのでご紹介します。「え～あなたも？何日？」「〇月は多いなあ！」と、ワイワイ楽しい新年会となりました♪

1月



2月



3月



4月



5月



6月



7月



8月



9月



10月



11月



12月





きょうかいがっこうだより

カトリック二俣川教会 教会学校
2025年3月

【3月の予定】	
・3月2日	教会学校 初聖体クラス
・3月9日	侍者会 初聖体クラス
・3月16日	教会学校 初聖体クラス 卒業・修了式



● 二十六聖人のろうそく行列

2月5日の二俣川教会の守護聖人である日本二十六聖人の記念日に合わせ、教会学校でも二十六聖人について勉強しました。その中には自分たちと同世代の子どももいたことに驚いたり、来年は自分もその年になるので、ろうそくの行列に参加したい、といった声も上がっていました。行列には今

年初聖体の勉強をしている7歳の女の子が最年少として参加しました。26人全員のゼッケンをつけて行列に参加することが夢だそうです。

● ナン助祭いってらっしゃい会

みんなだいすきナン助祭が司祭叙階の準備のために故郷ベトナムへ。いってらっしゃいという気持ちを込めてみんなでお見送りしました。



ナン助祭とはたくさんの思い出があります。教会学校の夏企画では子どもたちよりはしゃいで海で遊んだり、教会学校に顔を出して下さったり、ミサ後は子ども達と一緒に前庭で遊んだり…

しばらくの間日本を離れるナン助祭へ感謝の気持ちを込めて、ひとり一輪ずつお花を持ってナン助祭へ手渡しました。ナン助祭の1番のお気に入りの聖歌、「イエスさまがいちばん」を歌ってプレゼントしました。歌い終わる時には、ナン助祭の腕の中に大きな一つの花束が完成しました。

ナン助祭、いつもわたしたちを優しく見守ってくださり、明るい気持ちにさせてくださり、ありがとうございました！夏の叙階式に向けて私たちも日本からたくさんお祈りします。





マリア会通信 No. 148

1月26日、主日ミサ後にマリア会総会が行われました。事前に懸念していた通り、出席者が少なく、ロビーまで出てお声かけをしましたが、21名の出席者で総会は開催されました。ご多忙にも関わらずご出席いただきました皆様、本当にありがとうございました。

2024年、マリア会はマリア会の日の映画で「あん」を観ました。あの時はワンコインランチのデザートに、どうしても手作りのどら焼きをお出ししたかったので、前日の準備がおおわらわでした。企画側にとっても思い出深いイベントでした。

各傘下団体の活動報告も大変活発でした。いつもながら素晴らしいな～と思います。動けるメンバーが少ない中、予定した活動はきちっと行っています。信仰に支えられた責任感が、足を止めさせないのでしょう。

今年は役員会選の年にあたり、4人の運営委員の中で検討し役割を決め、以下のように提案し、総会で承認されました。

会長 K. R. さん、

副会長 H. I. さん、F. N. さん

書記 K. M. です。

昨年の総会で運営委員に自薦で参加して下さった会長のKさんの強みは、彼女の気さくな性格と、何に対してでも興味を持ち、子育て中にも関わらず、ご自分の時間、能力を惜しげもなく発揮されることです。若い人たちとの交流も多いので、この1年にもたらされた情報は、私にとって耳新しいことばかりでした。



今年2025年のマリア会にも期待してください。総会の会場から2025年の聖年の年に山手教会を訪問しませんか？という御提案を頂きました。ぜひ実行したい御提案でした。2025年のマリア会は「楽しい、嬉しい」時間を提供する活動をして参りたいと思います。よろしくお願い致します。

マリア会 K. M.

「編集後記」

今年、横浜教区に3人の新司祭が誕生しようとしています。素晴らしいお恵みで、『希望』がテーマの通常聖年にあって、目に見える“しるし”のようにも感じます。ナン助祭が叙階の準備のためにベトナムへ一時帰国されました。叙階式はベトナムで行われるので、私たちにはあまり物理的な準備はありませんが、だからこそ遠いベトナムにいらっしゃるナン助祭と心を合わせて霊的な準備をするこの半年を、大切に過ごせたら良いなあと思います。 (O.Y.記)